

バイオセラピー学特別実験・実習・演習 (10単位)

担当者氏名 宮本 太・安藤元一・小川 博・浅野房世・大石孝雄・林 良博・山口裕文

◆学習・教育目標

バイオセラピー学における各専門分野の様々な課題について、指導教授の指導の下、実験、実習、演習および論文研究を通し、論理的な思考能力、研究能力および問題設定、解決能力を養う。本科目は植物共生学、野生動物学、人間植物関係学、伴侶動物学、植物介在療法学、動物介在療法学の各6研究室がそれぞれに持つ科学的、社会的な課題に様々な角度から実験、実習、演習を進めることにより、バイオセラピー学とは何かを理解追求する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

野生動物学 伴侶動物学 植物共生学 人間植物関係学
動物介在療法学 植物介在療法学 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	生物多様性の保全・保護	自然環境と植物の関係を理解追及する 植物共生(1)	指導内容と時間、指導への対応等について記録した月報を作成しておく
2	環境と生態系サービス	豊かな生物多様性の利活用を理解追求する(2)	
3	野生動物保全の手法(1)	飼育下における野生動物の生理の理解と調査法	
4	野生動物保全の手法(2)	野外における野生動物の生態の理解と調査法	
5	人間植物関係性の成立	人間と植物との関係性の解析 人間植物関係(1)	指導教授より出される課題に対し、レポート作成し、問題解決能力を養う
6	人間植物関係性の福祉活用	人間植物関係性の福祉利用(2)	
7	人と伴侶動物の共生	人と伴侶動物の共生の問題点を探る	
8	伴侶動物の福祉と活用	伴侶動物の福祉と活用の将来方向を理解追求する	提出されたレポートをもとに指導教授との質疑応答から様々な対応能力を養う
9	植物介在療法の臨床(1)	個々の研究に応じた臨床の現場を探し、その現場を理解する	
10	植物介在療法の臨床(2)	臨床に応じた評価を研究し、そのメソッドに基づいた効果を検証する	
11	動物介在療法-人間への効果	動物との関係性から得られる人の心身への効果について理解し、その因子を考究する	
12	動物の療法的利活用	動物、特に介在動物の持つ特性を理解し、より良い療法的利活用を追求、社会的発展の促進を図る	
13	総括 (1)		
14	総括 (2)		
15	総括 (3)		

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

/ ()

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門/講談社（2012） / / ()

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

課題に対するレポートによる評価

◆その他受講上の注意事項

教員の指導と指導に対する対応等の記録を月報として提出し、承認を受けること。
